

(5枚)

本店レク 議事メモ

日時：平成23年4月18日（月）11:15～12:15

場所：東京電力本店1階101A B会議室

先方：記者約50名（カメラ5台）

当方：原子力設備管理部

広報部

配付資料

- ・東北地方太平洋沖地震による影響などについて（4月18日 午前9時現在）
- ・福島第一原子力発電所 1～3号機プラント状況
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・福島第二原子力発電所モニタリングによる計測状況
- ・福島原子力発電所事故対策統合本部画像
- ・1号機原子炉建屋内線量測定箇所及び測定結果

冒頭、[]からプラントの注水状況、塗装封入の状況や作業予定等について説明。

質疑：

Q. 昨日のロボットによる1、3号機の調査結果は。

A. 1号機原子炉建屋1階北側二重扉からエレベータまでのエリアで計測した範囲内では、線量は最大で約49mSv/h、最小で約10mSv/h。温度は約28～29°C、湿度は約49～56%。酸素濃度は約21%。

2号機原子炉建屋1階南側二重扉脇で計測した範囲内では、線量は最大で約57mSv/h、最小で約28mSv/h。温度は約19～22°C、湿度は約32～35°C、酸素濃度は約21%。

これらのデータについては、いずれも暫定値で評価中である。

Q. 昨日の話だと、1号機の二重扉内側の線量が270mSv/hだったかと思うが、線量が最大で約49mSv/hとはどういうことか。

A. 詳細は調査中であるが、16日に測定した線量270mSv/hは南側の二重扉で、今回測定したのは北側の二重扉である。

Q. 原子炉建屋内に水溜まりはあったのか。

A. 現時点では水溜まりはなかったという情報は入っていない。

Q. がれきに関する情報は。

A. 3号機については障害物が多く、前進が困難であったという情報はある。

Q. 障害物とは何か。

A. 現状、詳しい情報は入っていない。

Q. 北側二重扉と南側二重扉の距離は。

A. 厳密な数字ではないが 80m程度と思われる。

Q. 人が入れる濃度と見ていいか。

A. 注意が必要な線量であると考えており、映像やダストサンプリングの結果等もふまえて、今後の状況を見極めたい。

Q. 集中廃棄物処理施設への水の移送は本日開始できそうか。何割程度作業を終えているのか。

A. 外部確認作業および止水作業を実施しており、原子力安全・保安院の確認後、移送することとなる。作業については大体終わっているものと考えている。

Q. 1号機のロボットが北側二重扉から入ったのは、南側二重扉の線量が高かったためか。

A. その通り。

Q. 1号機北側二重扉の測定値は。

A. 16日に1号機北側エアロックの内側の二重扉の窓から確認した線量は約20mSv/h。

Q. 1号機北側二重扉の測定値が約20mSv/hで、建屋内の線量が最大約49mSv/hであれば、約270mSv/hが測定された二重扉南側の建屋内の線量は500mSv/h程度あるということか。

A. 具体的なことは判断しかねるが、北側の状況については、今後の分析結果等で分かってくるものがあるかと思われる。

Q. 窒素封入しているが、格納容器圧力が176.5kPaに下がっている。窒素封入開始して10日以上経っていて効果がないように思われるが、2、3号機はどうするのか。

A. 現在、28m³/hで注入しているが、本日3時の段階で格納容器圧力が176.5kPaに低下しているが、原因については現在、評価しているところ。

Q. 1号機北側二重扉と南側二重扉のどのような機器があったのか。

A. 現時点では機器の配置等に問題があったとは考えていないが、今回の調査結果をふまえて確認したい。

Q. 本日提供した動画で映っている会議はどのような内容か。

A. 夕刻開催している定例の全体会議で、発電所と本店で回線をつないで一日の作

業の様子等を共有し合うもの。

Q. 映像に映っているメンバーを見ると、経産大臣、勝俣会長、原子力安全・保安院、外務省、自衛隊等の関係者がいるようだが、通常もこのような方が会議に参加しているのか。

A. 全員の方が毎日出席されるわけではないが、映像に映っている方々が会議にご参加いただいている。

Q. 福島事務所の会見では「1～3号機タービン建屋、トレーニング、原子炉建屋の溜まり水が計7万トン」と言っているようだが、事実か。

A. 最新の数値は、タービン建屋とトレーニングで1号機は20,500トン、2号機は25,000トン、3号機は22,000トンで計67,500トンなので、そちらを「約7万トン」と説明したものと思われる。

Q. ロボット調査において、1～3号機で昨日事前サーベイを行っているところ、その結果を教えてほしい。

A. 南側については1～3号機すべて行っており、その測定結果は先ほどお伝えしたとおり。また、北側については1号機だけで行っており、その最大はエアロツク内側の20mSv。

Q. 3号機の57mSv/hはどのように評価しているのか。

A. 評価については行っているところ。

Q. 以前、4号機は原子炉建屋に入っていたと思うがいかがか。

A. その通り。

Q. 福島事務所の会見において、1～3号機のT/B、トレーニング、R/Bは汚染水の総量が7万トンとの発言があったが。

A. 以前は1～3の各号機2万トンと伝えていたが、現状、1号機20,500トン、2号機25,000トン、3号機22,000トンとみており、これを指して7万トンと言ったのだと思量。なおこの数量はT/Bとトレーニングの合計。

Q. 2号機の25,000トンを集中ラドに移送すると、残り容量はほとんどないということか。

A. その通り。残りが数千トン程度になる。

Q. 原子炉建屋の湿度は通常どの程度か。

A. 通常運転時は空調が効いているので低い。なお、現状として、1号、3号は建屋が壊れており外気の影響を受ける。2号機は建屋が健在であり、蒸気が出ているれば飽和状態になるかと思う。今後、現場撮影等を見て詳細を確認していきたい。

Q. 2号のT/Bとトレンチの溜まり水は現状 25,000m³とみているということだが、以前は 20,000m³ではなかつたか。増加したということか。

A. 確認する。

Q. 2号トレンチ水位が継続して 3cm/日上昇しているが、どのように評価しているか。

A. 流入している量は安定しているとみている。現状の上昇が続いた場合、20~30日あふれずに管理できるが、できるだけ早く集中ラドに移送したいと考えている。

Q. 原子炉への注水量とトレンチの溜まり水のバランスについてはどのように考えているのか。

A. 150トン/日の注水量と比較するとトレンチの水位の上がり方が多い気がする。サブドレン水が入ってきていることも否定できない。

Q. トレンチ水位が 1cm 上がるとどのくらいの水量が流れ込んでいることになるのか。

A. 確認する。

Q. 2号トレンチの溜まり水の移送は一両日中か。

A. 集中ラドは止水作業の最終段階だが、保安院の確認により追加作業もあり得ることからはつきりとは言えない。ただ、できるだけ早く移送を行いたいと考えている。

Q. 溜まり水の移送経路は。

A. 各号機のT/B建屋の中を通すなどし、集中ラドまで移送する予定。12m³/h のポンプ3台で送ることを計画しており、2万トンだと単純計算で 555時間かかる。

Q. 海洋サンプリングの核種調査については 2F と第三者機関で測定することだったが、第三者機関とはどこか。

A. 確認する。

Q. ロボットによる調査の結果、酸素濃度は 20%のことだが建屋の損傷との関連についてどのように評価しているか。

A. 原子炉建屋の酸素濃度は元々 20%程度であり、建屋に損傷と酸素濃度 20%の関連については何とも言えない。

Q. 1号機におけるロボットによる調査において、窒素は調査エリアには充満していないと考えてよいか。

A. D/Wから窒素が出ているとは考へているが、それとの関連は今回の調査では不明。

Q. 2号機の移送について。ホースのリークテストは本日実施予定か。

A. 集中ラドの止水工事終了後にリークテストを行う予定をしており、現状では本日行えるか未定。

Q. 菅首相が本部長席に座ったことはあるのか。

A. ある。

Q. 3号機原子炉内的一部の機器における温度上昇の状況は。

A. ベロシールについては低下傾向。現状 240°C程度。

Q. 現在採取できている全パラメータについて提示を現在求めているが、これに関連して、従来採れていたデータについても提示いただきたい。

A. 検討してまいりたい。

Q. ロボットが測定した気温と、建屋外気温との差は。

A. 確認する。

Q. 水素を今後測定しないのか。

A. 確認する。

以 上

会見概要

日時：平成 23 年 4 月 18 日（月）19:05～21:00

場所：東京電力本店本館 3 階 ABC 会議室

先方：80 名（カメラ 9 台）

当方：原子力・立地本部

　　原子力設備管理部

　　原子力運営管理部

　　広報部

配付資料：

- ・福島第一原子力発電所の状況
- ・東北地方太平洋沖地震による影響などについて【4月18日 午後4時現在】
- ・福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について（第二十六報）
- ・福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について
- ・福島第一原子力発電所 2号機取水口付近からの放射性物質を含む液体の海への流出について（続報 14）
- ・福島第一原子力発電所 2号機スキマーサージタンク水の分析結果について
- ・パックボット画像
- ・福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ（水位・圧力・温度などのデータ）
- ・福島第一原子力発電所 1～3号機プラント状況
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・福島第二原子力発電所モニタリングによる計測状況

冒頭、[REDACTED] が各資料に関して説明。

質疑：

Q. スキマーサージタンクの分析結果について、半減期の長いセシウム 134、セシウム 137 が特に多く検出されているが、元々の使用済燃料の成分を表しているということか。

A. 半減期が 8 日のヨウ素 131 はセシウムと比較すると相対的に少ないものの、 $4,100 \text{Bq/cm}^3$ が検出されている。使用済燃料プールは原子炉で使い終わった燃料が入っているのでヨウ素 131 は本来であれば減衰しきっているだろう

と考えている。よって、使用済燃料が損傷しているか否かはもう少し検証してまいりたい。

Q. 使用済燃料プール内の燃料は何らかの損傷をしているということか。

A. まだ断定するまで至ってはいない。

Q. 使用済燃料プール以外からセシウム等が出てきている可能性はあるのか。

A. 炉内の水が使用済燃料プールへ混ざり込んできた可能性はあるが、詳細は評価してまいりたい。

Q. NISAの情報によると原子炉の熱交換機について、1、3号機は空冷を検討しているとの情報があるが、事実関係は。

A. 現時点では検討中。最終的には原子炉の熱を循環させたい。水冷だと海水等を用いるのに対し、空冷だと大気に熱を捨てることになる。一般論で言えば水冷の方が効率が良く、コンパクトにできると考えている。

Q. 1F3の水位、圧力に関するパラメータで水位が記載されていないのはなぜか。

A. データの転記漏れと思われる。

Q. 本日の参議院の予算委員会では、ベントが遅れた理由として、菅内閣が視察していたことではないかという議論が出ていたが、清水社長によると、住民の避難がしっかりと出来たことがベント実施の必須条件との発言もあったが、本当か。

A. どのような判断があったのか、ベントの時系列についてはもう少し整理した上で皆さんにお伝えしてまいりたい。住民の方々が避難をしていただくというのは判断するにあたって必須だろうと考えている。

Q. 3/12の朝6時前までは1号機のドライウェル圧力が840kpaだったのが、その後下がっている。このタイミングで格納容器に何らかのパスが出来たと言うことか。

A. 1号機の格納容器のベントについては現在確認されているのは3/12の14時半頃がベントでドライウェルの圧力が下がってきたと考えている。

Q. 3/12の午前6時頃に圧力が下がっていることに対する評価は。水素爆発が発生して何らかのパスが出来たものではないのか。

A. 格納容器内の何らかの機密性が弱い箇所から気体が漏れはじめる可能性はあるが、それがこのタイミングなのか、時系列については確認しているところ。

Q. 2、3号機については、燃料が露出するまでにある程度時間があったのだから、もう少し早く海水注入するという判断はできなかつたのか。

A. 並行して複数の作業をしている中での作業となつたこと。また、炉水の低下や注入系の手段が無くなつたことでどのように冷却していくかを考えて、いつた結果での時間である。詳細時系列等については確認しているところ。

Q. 4号機の原子炉建屋地下1階に人が立ち入つて現場を確認したとの情報があるが事実関係は。

A. 4号機の原子炉建屋の確認については、4/14、16、17に地下のたまり水の状況確認のため、2階に入つている。3階に行く階段が破損していたため、3階には行けなかつた。地下については階段の途中に水が溜まつており、その先に入れなかつた。また、その際測定した放射線量は最大で1.5mSv/hであった。

Q. 1.5mSv/hが測定された場所は。

A. 2階の浄化系熱交換器室の空間線量である。

Q. 入れないほどの溜まり水とは具体的にどのくらいの量があつたのか。

A. 確認できていない。

Q. 金曜日に熱中症で倒れた人がいたことを踏まえ、エアコン完備のプレハブの休憩所を準備したことだが事実関係は。

A. 発電所内での作業は、全面マスクとカバーオールを着た上での作業で、また、4月に入って気温も上がり、作業中に体調不良となられた方がいたことなども踏まえ、5、6号機サービスビル建屋入域用のゲート付近に休憩所を設置する予定。40人程度が休憩できる広さで、明後日20日から運用開始予定。

Q. スキマサージタンクの分析の件で、2号機使用済燃料プールの温度が71度というのと関連があるのか。

A. 71度は通常時の30度前後と比較して高い温度である。温度と分析結果の関係については現時点ではわからない。

Q. 使用済燃料の本数は。

A. 615 体あり、その内 28 体が新燃料。

Q. 2号機スキマサージタンクの分析について、汚染水が作業に影響を及ぼす可能性はあるのか。

A. プール内に留まっている限り作業には影響がないと考えているが、近くに冷却剤浄化系の配管が通っているので、その周りでの作業においてはセシウムからのガンマ線の遮へいが必要になってくる。

Q. 汚染された2号機使用済燃料プール水の処理方法は。

A. ゼオライトによるセシウムの吸着やフィルターによる処理などは必要になるとを考えている。

Q. 2号機使用済燃料プール内の燃料の損傷の可能性はあるのか。

A. 今後、評価させていただきたい。

Q. 1、3号機のロボット作業の写真がない理由は。

A. 本日は2号機の測定を実施したということで2号機の写真を出させていただいた。

Q. 2号機のスキマサージタンクの分析結果について、使用済燃料プール内の燃料損傷の可能性と炉心内の燃料の損傷の可能性、両方があるということは良いか。

A. 可能性としては2通り考えられる。

Q. セシウムとヨウ素の量、割合が大きく異なる理由は、8/15 に2号機で爆発音があったが、その時、炉心に何らかの損傷があり、その後約1ヶ月間経過していることで半減期が短いヨウ素のみ減衰したと言うことか。

A. 格納容器の圧力がダウンスケールを示したという事実はあるが、これから評価していく。

Q. なぜセシウムが高いかと分析していく材料としては何を考えればよいのか。

A. 詳細はこれから評価していくところだが、過去に1本、燃料が漏えいしたという例もある。そこから漏出した可能性もあり、現時点ではこれが決め手となるものがある訳ではない。

Q. 過去の燃料漏えいとは。

A. 1981年9月に過去にピンホールが開いたものが1体保管されており、水温の変化等でピンホールから何らかの形で漏出したという可能性も考えられる。

Q. 2号機に入ったロボットの確認した線量は。

A. 明日午前中のレクまでには確認してお知らせしたい。

Q. 1, 3号機で確認された原子炉建屋の線量を踏まえて昨日の工程表通りに作業が進めるか変更の必要があるか、どのように判断しているのか。

A. もう少しデータ等を集めてから判断してまいりたい。

Q. 2号機のトレンチが毎日2~3センチ上昇しているが、集中廃棄物処理施設への移送は間に合うのか。

A. 集中廃棄物処理施設の止水工事そのものは先ほど終了した。また、リークチェックも現時点では問題ない状況。今後、NISAによる最終のご確認をいただくところ。

Q. 止水工事の終了時刻は。

A. 止水工事が終わったとの情報のみなので確認させていただきたい。

Q. いつ頃の移送になりそうか。

A. 本日はないと思うが、早ければ明日、明後日頃になるかと思われる。

Q. これまでの提供写真のデータについて海外マスコミにHPで公表した日時は。また、日本のメディアにはいつ、どのように伝えているのか。

A. 3月24日から海外マスコミ向けの公開ページを開設した。日本のマスコミの方については、会見等で情報提供させていただいている。

Q. 海外マスコミ向けの公開はホームページで実施しているのに、日本のマスコミについては会見の場でデータ提供することで情報公開としているのはおかしいのではないか。

A. ご意見として承る。

Q. 工程表に必要な作業人数はどのくらいになるのか。

A. まだどのくらいの作業人数が必要となるかは予測できていない。資材、機材などの詳細内容が決まってからになると思う。

Q. 作業人数は会見で公表いただけるか。

A. これまで作業人数については特段公表していないが、作業内容等については紹介してまいりたい。

Q. ロボットが3号機はがれきが多數あったとの情報があるが、1、2号機の状況は。

A. 3号機は内側の二重扉を開けて前進しようとしたらがれきのようなものがあり、活動範囲があまり広くなかったようである。1号機は比較的通路の端から端まで移動できたという情報がある。2号機は実績を確認してお知らせしたい。

Q. ロボットが撮影した動画については公表できるのか。

A. 確認させていただく。

Q. 集中廃棄物処理施設の移送が遅れている原因は。

A. 高濃度の水を受け入れるために、建屋の止水工事を入念に行っていたため。

Q. 止水工事はどのように実施していたのか。

A. 止水セメント等で実施していた。

Q. リークチェックはどのようにやる。

A. 立坑に沈めた水中ポンプで吸い上げた水を集中廃棄物処理施設までホースで送るため、ホースの継ぎ手等から漏れることがないかを確認する。

Q. 2号機からの水移送の目標は。

A. 実作業は終わったので、最終的な止水工事の状況と移送計画等をまとめて原子力安全・保安院に報告して移送する。時期は近々と考えている。

Q. 1号機格納容器からリークがあるという見方は変わっていないのか。

A. 圧力が上がっていなことを考えると、リークがあり機密性が十分ではないという考えは変わらない。炉心の残留熱が徐々に減ってきてるので、吹き出している蒸気が減っているものと推定している。

Q. 格納容器に水を貯めるために、今後どのようにリークを止めるのか。

- A. リークを止めるためにはリーク箇所を見つける必要があるが、現時点では難しい。今後、燃料集合体トップまでみずを入れると、今ある気相の部分が減り押し出されるので、その部分については活性炭フィルタを通じて排気できないかを検討しているところ。
しかしながら、現時点で周辺のモニタリングポストの数値等を見ると大量の漏えいがあるわけではないと考えている。

Q. 3号機の格納容器の状況はどうか。

- A. 3号機の格納容器の中はほぼ大気圧と同じ状態なので、1号機より機密性が悪いと考えている。窒素封入については必要があると考えており、現在、方法について検討しているところ。

Q. 今後、汚染水をこれまでと違うところに移送する予定は。

- A. 高レベルの汚染水の移送先まずは集中廃棄物処理施設へ約3方トン移送することを考えている。
その他、仮説タンクで高レベルのものを受け入れられるかを検討したり、ゼオライトで高レベルの水を低レベルにする等の検討をしているところ。

Q. 容量は足りるのか。

- A. 現時点では、水の処理に関しては何とかなるのではないかと考えているが、予期せぬことでも対応できるような予備のタンクを用意する予定。

Q. 窒素封入の目的は達成に向かっているのか。

- A. 窒素封入は水素爆発防止の目的であり、目的は達成しつつある。一部抜けているが、ほぼ窒素雰囲気になっているものと思われる。

Q. 原子力安全・保安院によると、4号機原子炉建屋の地下1階に水があって水位は5mあるとのことだが、事実関係はどうか。

- A. 1階から階段を降りていったら水があった。

Q. 4号機の使用済プールの補強工事を検討していることと思われるが、今回の溜まり水が工事に与える影響は。

- A. プールは原子炉建屋上部にあるため、地下の溜まり水が直接、プールの補強工事に影響するとは考えにくいと思っているが、3階に通じる階段が破損しているので、まずは現場の状況を確認していくことからと考えている。

Q. 地下の溜まり水はどのように処理するのか。

A. 今のところ処理方法まで考えていない。原子炉建屋の地下に水が溜まっているだけの状況であれば、急いで処理する必要はないが、しかし、今後設置する冷却設備や配管の引き回し等に干渉するのであれば、何らかの排水をして空間を作り出すことが必要ではないかと考える。

Q. 14日頃から現場を行ったとのことだが、何の目的で現場に行ったのか。

A. 何らかの作業のために行ったのではなく、まずは現場の状況を確認しに行った。

Q. 1、3号機の格納容器を水没させることによって水が漏れることはないとか。

A. 格納容器の機密性が完全ではないので、水が漏れないように慎重に確認してやりたい。実施の際は、各種パラメータ等を確認しながら実施することになる。

Q. 水が漏れた時はすぐに対応できるのか。

A. 漏れた水に対しては建屋内に留めておくのではないかと思っている。

Q. 1号機から窒素封入を始めた理由は。

A. 1号機の格納容器は、窒素封入前から 150kPa 程度の圧力があったので十分な機密性を有していないとはいえる、当時の状況は水蒸気が充満している状態で、格納容器が冷えることで水蒸気が凝縮して水素の分圧が上がって可燃限界に到達することを防ぐために窒素を封入したもの。2、3号機は格納容器が大気圧なので、1号機より気密性が劣っているのではないかと思っている。従って、窒素入れてどの程度効果があるか、現時点での水素や酸素の状態を判断したうえで、実際に窒素封入に入るための評価を進めているところ。

Q. 3号機の格納容器もかなり損傷して漏れているのか。

A. 圧力が維持できていないという観点では、格納容器は1号機より、2、3号機の方が劣っていると思っている。

Q. ロードマップに沿って、目標人員は確保できるのか。

A. 必要な社員や協力企業作業員の人員を手配してまいりたい。

Q. 2、3号機のサプレッションプールの損傷を発見することは困難ということでしょうか。

A. 現時点では現場に行けていないので損傷箇所を特定できていない。

Q. 高濃度の汚染水の処理は「何とかなる」とのことだが、その根拠は。

A. 現時点では集中廃棄物処理建屋へ移送し、順次、ゼオライトやフィルターによる低濃度処理を実施し対と考えている。現在、設計している段階であるが、汚染水の処理は可能と判断している。

Q. いつからどのような形で汚染処理を実施するのか具体的に教えていただきたい。

A. 現時点でどこの水をどのように処理するかは検討しているところ。

Q. 3号機のタービン建屋内のたまり水も高濃度の汚染水だったと思うが、具体的な処理工程を教えていただきたい。

A. 現時点でどこの水をどのように処理するかは検討しているところ。

Q. 「何とかなる」というのは緊急時に排水出来る設備がある等、バックアップできるプランがあるのか。

A. どのくらいの量をどのように処理するかは検討しているところ。

Q. 海外からの支援物資等のリストについて早くご呈示いただきたい。

A. もう少しお時間をいただきたいと考えている。

Q. 工程表の各項目の進捗状況を具体的に教えていただきたい。

A. 現時点で、1~63の対策の各工程表については作成中なので、できあがり次第、お知らせしてまいりたい。

Q. 集中廃棄物処理施設の止水工事とは応急的なものが、もしくは長期的な保管を目的としているものか。

A. 応急か否かの差は分からぬが、2号機にあるような高濃度の汚染水を一定期間入れても漏れないよう、漏れてる箇所の修理や配管の貫通口の補修などを実施したもの。

Q. 南・北放水口付近ではプルトニウムの分析を実施しているが、2号機や3

号機の取水口付近でも実施しないのか。

A. 現時点では予定していないが、今後の拡散状況を踏まえて検討したい。

Q. プルトニウムの分析をすればどこからどのくらいの漏えいや燃料損傷が起きているか分かるのではないか。

A. どこのプラントから漏えいしたものか判断するのは難しいが、漏えい経路については分かってくる可能性は考えられる。

Q. 参議院予算委員会で清水社長からベントの前には外部への影響を考慮する必要があるとの発言があったが、外部への拡散シミュレーションは現時点では出来ていないということではなかつたのか。

A. 格納容器からベントを実施する場合、非常用ガス処理系が使えないでダイレクトで放出されることになる。そのため、住民の避難状況を把握する必要がある。

Q. 清水社長の発言によると、環境への影響を考慮することであり、住民の状況把握と言う観点とは異なるのではないか。

A. 同じような意味合いであると考えている。

Q. 1号機のベントはドライベントを実施したと言うことか。

A. 詳細は確認中だが、ウェットベントを実施した。フィルターは通っていないが、サプレッションプールを通っているので、アルカリ性の金属やヨウ素などは水に溶けて線量がある程度下がった状態で放出されている。

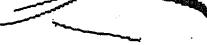
Q. ドライベントは3/15に実施した2号機の1回のみか。

A. 時系列については検証中である。ドライベントについては、実際に放出されたものなのかも含めて確認中。

Q. 4号機原子炉建屋の地下にたまり水があったことについて、4月上旬に現場の状況を確認していたと思うが、今回は何らかの作業を実施しに行き、その結果、たまり水があることが確認されたのではないか。

A. 3/31に4号機原子炉建屋に入り、現場の確認をしているが、今回についても現状の把握を行ったものと聞いている。

上記質疑の後、[REDACTED]より本日の作業状況について説明。



以 上